

入選

一秒の価値

川口市立高等学校附属中学校 三年 並木 優真

うるさい目覚ましを止めて洗面所に向かい顔を洗い、歯磨きをする。この行動だけでどれだけの水が失われているか、私たちは知らないまま生活してきた。無意識のうちに地球を傷つけてしまったのだ。

真冬並みに寒い三月。最近よく感じるようになってきたのは「私たちは水のありがたさを知らない」ということ。地球温暖化が進み地球の限りある資源について考えることが増えた人も多いだろう。けれど水という資源について考えた人はごくわずかである。お風呂が好きな私は湯船につかりながら考えた。これができるのもきれいな水が地球にあるおかげである。そこで、私たち人間が日常的に使う水の量を数字で表してみることにした。洗濯は一回で約五十リットル、トイレ一回で六から十二リットル、浴槽での入浴で約二百五十リットル、シャワーは一分間で十リットルの水を使用する。ほかに様々なことに水は使用されているため、合計で約二百五十から四百リットルの水が使われている。では、私たちが毎日無駄にしている水の量はどのくらいなのだろうか。それは二百五十から三百リットル。浴槽二つが満杯になるほどの量である。私は今まで他人事のように地球環境を考えていたけれど、この事実を知ってもう一度水への向き合い方について考えることにした。

「水は無駄遣いしたとしても、また循環して私たちの元に戻ってくるのだから問題はない」このような考えの人は一定数いるであろう。けれどこの考え方は間違っている。

水は一度下水道に流してしまったら、多くの時間と薬品を消費して私たちの元に戻ってくるのだ。私はこのことを知ったとき、あるホテルの浴槽に書いてあった言葉を思い出した。「シャワーの水を出したままにすると約四分ほどでこの浴槽が満杯になります。よく考えて水を使いましょう。」その日はシャワーを使わないときは必ず水を止めて、水の消費量を減らすように心がけた。ホテルは一般的にお客様におもてなしをする

施設だと思っていたが、ホテル側から指摘されたのは初めてで驚いた。それほど環境問題が深刻な状況なんだろうと察知した。

現在の世界人口はおよそ八十億人、それに対して人間が利用できる水は地球の水の約百分の一パーセント。また、国際連合は二〇三〇年までに世界の水供給が四十パーセント不足する可能性を予測している。さらに世界気象機関は二〇五〇年に五十億人が水不足の状況に陥ると試算している。すでに約四十か国以上の国が水不足に陥っている。中でもシリアやインドでは水を求める紛争や、地下水の過剰利用が問題となっている。すぐ近くに危険が迫っていると実感した。しかし今対策をすれば水不足を防ぐことができる。私たちが今すべきことは、必要最低限の量の水を使用すること。地球は一つしかないのだから、皆が協力しない限り水資源は減少し続けるだけである。まずは身近な人たちと水問題について向き合い、水の使い方を改めよう。

世界の水不足の現状や、無駄遣いしていた水の量を数値で見ること、これから先の生活に恐怖を感じた。この恐怖をなくすることができるのは自分次第、今までの地球を取り戻すことができるチャンスはたくさんあるのだから。この生活を続けるために、今行動しよう。